

国際地域イノベーター人材養成プログラム 科目概要

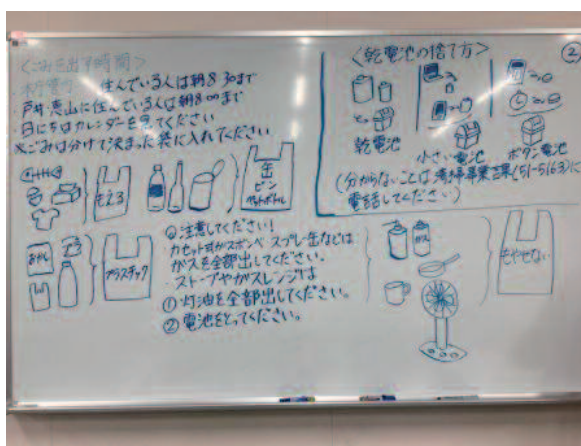
④ 日本語学習支援概論

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター

副センター長 佐藤 香織

「国プロ」の先行実施科目として、2020年度から「日本語学習支援概論（地域生活支援）」及び「日本語学習支援概論（学校教育）」を開始した。2022年度は3年目の実施となり、初めて国プロ履修生が本科目を受講することとなった。

まず、本科目の概要について述べる。函館を訪れる外国人、あるいは函館に在住している外国人と地域の住民が日本語でコミュニケーションする場面が増えている現在、多文化共生の視点から、地域や職場、学校現場において、外国人の日本語学習をサポートできる能力、日本人と外国人との円滑なコミュニケーションをサポートできる能力が、今後地域で活動していく人材には必要不可欠である。そのため、本科目では、日本語学や日本語教育の前提知識がない受講者を対象に、初級レベルの日本語学習者に対する理解や、外国人が地域で生活するということに対する理解を深め、日本語学習をサポートするための基礎的な知識と実践的な技能を身につけることを目的とした。また、日本語学習支援者は、外国人と日本人が相互理解を深め、お互いの交流及び協働が一層活発になるような取り組みを推進できる人材としても期待されるため、具体的に地域で想定されるような実践（ごみの出し方について分かりやすく説明する、職場や学校に来た外国人を歓迎するスピーチを行う、など）を取り入れるとともに、2022年度は「地域に日本語学習者を迎えた際の交流活動の企画」を行い、その際に「やさしい日本語」でどのように説明を行うかの実践も行った。



授業風景

本科目の対象学生は、「日本語学習支援概論（学校教育）」が地域教育専攻及び教員志望の2～4年生、「日本語学習支援概論（地域生活支援）」が2～4年生である。今年度は2つの科目を合同で行った。具体的な授業スケジュールを、表1に示す。

表1 2022年度「日本語学習支援概論」授業内容とスケジュール

	担当教員	日本語学習支援概論（地域生活支援）・日本語学習支援概論（学校教育）	
6月2日	佐藤 香織	1	オリエンテーション、日本語学習支援者の役割
6月8日	森谷 康文	2	地域の外国人労働者を取り巻く状況
6月15日	森谷 康文	3	移民とその子どもをめぐる状況について
6月22日	金 鉉善	4	定住外国人を対象とする法教育の必要性（日本語学習支援との関係）
6月29日	金 鉉善	5	多文化共生社会の実現に向けての自治体の取り組みについて （地域によって外国人政策が異なる背景を探る）
7月6日	佐藤 香織	6	学校現場での日本語学習支援の仕組みと函館市の課題
7月13日	今在 慶一郎	7	日本語学習支援者が理解しておくべき異文化間コミュニケーションについて
7月20日	高橋 圭介	8	外国人に対する「やさしい日本語」とは （「やさしい日本語」についての概説、取り組み例）
7月27日	佐藤 香織	9	初級学習者（N5レベル）が理解可能な文法・語彙について
8月30日	菊池 律之 佐藤 香織	10	初級学習者（N5レベル）に対する「やさしい日本語」での話し方の基本練習 （悪い例を良い例に変えるなども）
		11~12	初級学習者（N5レベル）に対する「やさしい日本語」の実践（ゴミの出し方の説明）
8月31日	菊池 律之 佐藤 香織	13	初級終了レベルの学習者（N4レベル）が理解可能な文法・語彙について
		14	初級終了レベルの学習者（N4レベル）に対する「やさしい日本語」の実践① （「日本語を少し学んだ仲間」を歓迎するスピーチを行う）
		15~16	初級終了レベルの学習者（N4レベル）に対する「やさしい日本語」の実践② （外国人技能実習生と地域住民との交流イベントにおける説明や雑談、 「賃貸住宅標準契約書」の重要な部分を分かりやすく説明する）

本科目は、前半の授業で地域の外国人を取り巻く状況についてさまざまな視点から学びを深めた上で、後半の授業で、実際の日本語学習支援の知識や実践的スキルを学ぶという構造になっている。地域で共に生活する仲間として寄り添う姿勢や、異文化の中で生活することへの想像力がなければ、日本語学習支援は表面的かつ一方的なものになってしまう可能性があると考えたためである。

集中授業を担当した天理大学の菊池律之教授からは、「今年度は、外国人材の来日がまた増え始めた時期に格好の練習として『地域で日本語学習者を迎えた際の交流活動の企画』のような話題も取りあげました。受講生たちはどの練習にも意欲的に取り組んでくれました。若者のセンスを生かした表現に触れることができたのは私にとっても大きな収穫でした。相手の理解度を十分に考えて話す・書くというのは、日本語教育や日本語学習支援に限らず、あらゆるコミュニケーションの場面で求められる基本的な姿勢であり、受講生たちにはこの大切さを実感する機会になったのではないかと思います」という、受講生の成長が実感できるコメントが寄せられた。

本科目の受講生からは、「さまざまな視点から日本語学習支援について考えを深めることができた。文法知識もそうだが、日本語学習支援者に必要なのは多様性に寄り添う力であると理解できた」「具体的な『やさしい日本語』への書き換え・言い換えの練習をたくさんすることによって、語彙や文法項目が制限される難しさを痛感した。日本語母語話者だからこそ日本語のレベルをコントロールする訓練が必要であることを感じた。日本語教師だけでなく日本語学習支援者も日本で生活する外国人に必要なということが分かった」など、好評価が得られた。

来年度からは、これまでの授業実践の蓄積を活かし、さらに内容や授業構成について改善していく予定である。